

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	ひろおかいけがたにせん 広岡池ヶ谷線
事業主体	徳島県	関係市町村	海陽町(旧宍喰町)
事業概要	【目的】 当林道は宍喰川の支流である広岡川南岸の東西に延びる稜線部に位置し、一体に広がる人工林地帯の森林整備を行う上での基盤として整備するもので、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進することにより、森林の有する多面的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的とし、ひいては地球温暖化防止や循環型社会の形成に役立つものと期待される。		
	【内容】 利用区域面積 581ha [人工林面積:467ha (80%)] 受益戸数(森林所有者数) 34戸 幅員 3.5m～4.0m 計画延長 10,700m (うち平成27年度末の供用(予定含む)延長 7,763m) 総事業費 1,877,885千円 (うち平成27年度末の実施(予定含む)事業費 1,180,351千円) 事業予定期間 平成8年度～平成35年度 (28年間)		
評価	【事業の進捗状況】 平成8年度に着工し、起点側:4,001m、終点側:3,762mが供用を開始しており、進捗率は72.6%進捗している。 <div style="text-align: right;">[進捗率:72.6%]</div>		
	【関連事業の整備状況】 当該路線では、間伐を目的とした作業路が開設され、森林整備が盛んに実施されており、今後も搬出間伐を含めた森林整備を実施される予定である。		
項目	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も62%と高い。森林資源は、人工林を中心に、この40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超える見込みとなるなど、成熟期を迎えている。 当該路線に係る森林資源では、人工林面積の79.5%がスギであり、うち59.5%は51年～80年生と、収穫期を迎えている。人工林面積の20%を占めるヒノキは若齢林が多く、手入れを主とした施業となる。 県内には製材業や家具製造業のほか、「合板工場」や「MDF工場」、「大型製材工場」など、多様な加工体制を有しており、県産木材の安定供給体制の整備が重要であるが、加えて、国産材需要は増加傾向にあり、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが必要である。 県では平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進し、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。平成27年7月からは林業の一步先の未来を切り開く「新次元林業プロジェクト」を展開、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指している。 目標を達成するうえで、主伐にも対応した「新林業生産システム」の導入と併せて、路網整備の推進が必要不可欠となる。		
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し		
目	【事業効果の発現状況】 これまでに供用開始した区間では、平成26年度までに間伐をはじめとする森林整備が延べ731ha実施され、間伐材を中心に2,175m ³ の木材が搬出されている。今後も森林整備面積49ha、搬出材積3,644m ³ あまりの実施が見込まれ、「新次元林業プロジェクト」の推進により、間伐面積の広がりに加え、主伐に移行してさらなる効果の発揮が期待される。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.26 (国の採択基準は1.0以上)</div>		
	【受益者・関係機関の意向】 高性能林業機械の導入による搬出経費の低減を図り、適切な森林管理を行う上で、基盤となる当林道の早期整備が強く望まれている。また、北河内地区の災害等の迂回路及び国道55号災害時の迂回路としても利用できるため、地元からの要望は非常に強い。		
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。			